

北村透谷

わが冬の歌

山口清一郎監督作品

さよならやさしかった人々よ
さよならむごかった人々よ
愛も望みも花に萎れ
想いは奔る夜の坂
俺が死んだら
平和の微笑を

生きるリズムを変えたものは
愛か、文学か、――
激しく揺れる時代を飛翔する
明治の青春群像！



企画 葛井欣士郎
製作 富山加津江
脚本 菅孝行
監督 山口清一郎
撮影 田村正毅
音楽 高橋悠治
美術 育野重一
照明 野村隆三
録音 杉崎喬
効果 小森護雄
編集 鈴木昌春
助監督 崔洋一
衣裳 福田源治
刺青 霞涼二
スチール 広瀬充男
三映社・ATG提携作品
カラー作品

みなみらんぼう
田中真理
河原崎次郎
石橋蓮司
西塚肇(新人)
大谷朗
築正昭
久米明
小林トシ子
松田修
なぎらけんいち
外波山文明
殿山泰司
鳥居恵子
水原ゆう紀
萩尾みどり
堀内正美
藤真利子(新人)
沖雅也

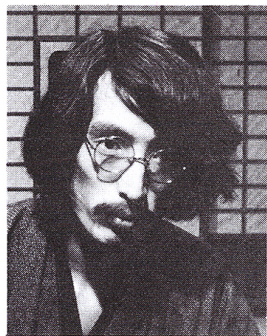
DESIGN: MASAKATSU OGASAWARA

12月17日(土) 新春ロードショー

日劇地階アート・シアター・チェーン

日劇文化

TEL (201) 2111

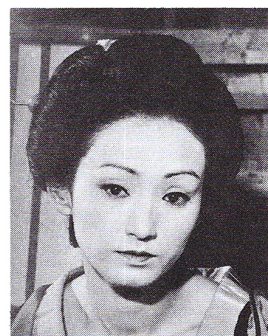


北村透谷

わが冬の歌



三映社+
ATG提携作品
カラー作品



●官能的透谷像を求めて

明治文学の天逝した先駆者北村透谷の右腕には、さくろの刺青があったといわれています。透谷と刺青とはいかにも奇妙な組合せですが、藤村の小説「春」の中にもそれを裏付ける一節があります。

この透谷の刺青の「秘密」を解き明かすことによって、定説となっている彼の人間像に全く別の角度から光をあてよう、というのがこの映画の出発点です。

透谷は明治元年に生れ、明治二十七年日清戦争開戦前夜自殺、満月に照らされた大木に、真白い女の着物を着て、くびれ死んでしまったのです。

透谷は十四才で自由民権運動に参加、二十才で婚約者のある令嬢を奪い結婚、政治から文学に転じ、藤村らと雑誌「文学界」を主宰し、当時全盛であった紅葉、露伴らの非近代性と鋭く対立しながら、多くの戯曲、詩、小説、評論を残しました。

刺青を手がかりにこの映画で描きだそうとする透谷像は、非常にエロティックな、熱い鼓動を全身から発散させるものです。美那を始め透谷をめぐる幾人かの女性との関係は勿論のこと、彼の文学活動にせよ、自由民権運動にせよ、大切なのは、そうした活動がどれだけ彼のエロスと根深く結びついていったかという点ではないかと思われまふ。

この映画は、透谷が、なぜあのように生き、あのように死んだかということの一切を、刺青の謎を軸としてダイナミックにきらびやかな映像で描かれます。

●みなみらんぼう映画初出演!

「初めてテレビに出る高倉健さんみたいに緊張しています」

作詞、作曲、歌手として大活躍中のみなみらんぼうは、初の映画出演について記者会見でそう語った。

政治と文学の間で揺れ動いた透谷の凝縮された人生を通し、青春のキズの今日の意味を出せれば……と、らんぼうに大きな期待をよせ、大張り切りの山口監督とスタッフの情熱にこたえ、「これを機に自分のカラを破りたい」と全力投球。



●田中真理四年ぶりの白い肌

48年6月日活「恋の狩人・欲望」を最後にスクリーンから遠ざかっていた田中真理が四年ぶりに白い裸身を銀幕によみがえらせた。この作品では透谷の妻、美那と娼婦蝶の二役を演ずる。四年間空白を少しも感じさせない妖艶なムードがいっぱい。

「エネルギー主体だったのが、硬さがとれて成長している。カドがとれ、柔和になりましたね」山口監督はそう証明する。

「五十才になった時の記念に残るような作品にしたい。本当の意味で女優になりたい」そう真理は語る。

●北村透谷と三人の女性

●美那

明治十八年政治への熱狂と俗世脱出の衝動に駆られて、多摩川地区を行商して歩いていた透谷は、南多摩の大地主石坂昌孝家を訪れ、その娘・美那と逢い、熱烈な愛情を抱く。透谷はこの愛のために戦い、遂に婚約者のある美那を自分の妻とした。透谷二十才美那二十三才。

●富井松子

松子は明治二十五年頃透谷がフレンド女学校で教えた生徒で、当時十九才、透谷の詩文を好んで読み、北村家にも出入りし、透谷を尊敬し愛していたが、肺を病み療養中、病床を訪れた透谷に一度髪を撫ぜてもらった時の記憶を唯一つの生き甲斐として病氣と戦ったが、間もなく死んだ、松子の死は透谷にとって大きな打撃であった。



●斉藤冬子

明治二十六年の夏過ぎ、富井松子の死んだ頃より自分の頭の動きが妙に鈍くなってきたことを感じつつ、明治女学校の教師をしていた透谷の教え子の中に最も語学の出来る生徒斉藤冬子がいた。

冬子は透谷の講義に新鮮な興味をもって耳を傾け熱心に答えた。松子の死で心の空しさを感じていた透谷は、この冬子に強く惹かれた

ようになった。しかし冬子もまた結核にかかり入院したが絶望となった。透谷の死後一ヶ月あまり後、冬子は死んだ。その懐から透谷が冬子にあてた手紙が出て来たという。



●スタッフ

企画……葛井欣士郎
製作……富山加津江
脚本……菅孝行
監督……山口清一郎
撮影……田村正毅
照明……野村隆三
美術……育野重一
音楽……高橋悠治
録音……杉崎喬

●キャスト

北村透谷……みなみらんぼう
美那……田中真理
大矢蒼海……石橋蓮司
平野友輔……河原崎次郎
島崎藤村……西塚瑩(新人)
戸川秋骨……大谷朗
星野天知……築正昭
山路愛山……堀内正美
秋山国三郎……松田修
川上音二郎……なぎらけんいち
石坂公歴(まさつぐ)……沖雅也
樋口一葉……藤真利子(新人)
富井松子……萩尾みどり
斉藤冬子……鳥居恵子
佐藤輔子……水原ゆう紀
蝶……田中真理(二役)

イメージ・フォーラム

映像研究所

●第2期(53年度)4月開講

映画とビデオの新しいコミュニケーション!

〒160 東京都新宿区四谷3丁目5番地 不動産会館ビル6F ☎357 8023・358 1983

●修得期間=1年間・毎週月・火曜(夜間) ●案内書請求(〒400円)